

未来に伝える山形の宝 『地域で行われる番楽の奉納』

《守り継がれる地域の伝承文化》

真室川町は今も各地域でお祭りが受け継がれています。その多くは神様のお祭りであり、地域をつなぐだけでなく、歴史や世代をつなぐ重要な役割を持っています。その中でも、平枝・八敷代・釜淵地区はお祭りの際に神社へ番楽が奉納され、この神事が活動の基本となっています。その様子をご紹介します。

■8/25(月) 平枝番楽奉納(神明神社例大祭)

平枝地区は、毎年旧暦の8月1日が神明神社の例大祭です。今年は8月25日がその日にあたり、神社に獅子舞が奉納され、その後、旧平枝小学校にて平枝番楽公演会が行われました。平枝番楽公演会では普段見ることのできない子どもから大人までの5演目が披露され、会場を沸かせていました。



■9/12(金) 八敷代番楽奉納(八敷代山神社例大祭)



八敷代地区では、毎年9月12日が山神社の例大祭にあたります。今年も山神社へ獅子舞が奉納され、その後の宿公演では、迫力ある武士舞も披露されました。また、夜の演芸大会では子どもたちによる「もちつき」も披露され、地域一体となった雰囲気の中、いきいきと受け継がれていました。

■9/13(土) 釜淵番楽奉納(釜淵山神社例大祭)

毎年9月13日は、釜淵地区の山神社例大祭です。今年も山神社と風呂輪権現で獅子舞が奉納され、集落を2日かけて門獅子が回りました。家を獅子が訪れるたびに子どもたちは怖がっていましたが、一年の無病息災を願って、悪魔祓いを受けていました。



どの地区のお祭りも、見たり参加することで元気になってきます。こうした地域の活動があるからこそ、さまざまな文化や活動が受け継がれていると思います。町全体を元気にするためにも、こうした「宝物」を地域全体で守り、受け継いでいっていただきたいと思います。

真室川町教育委員会教育課(☎62-2305)